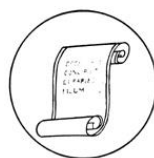


ひかり

2020年3月号

第686号



Advent

日本聖公会 三光教会

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

※コロナウイルス禍により発行が大幅に遅れたことをお詫びいたします。(2020年10月)

非暴力的コミュニケーション

司祭 ヨナ成 成鍾
ソン ソンジョン

皆さん、「言葉は存在の家だ」という話を聞いたことがありますか。これはキリスト教にも多大なる影響を与えたドイツの哲学者マルティン・ハイデッガー(Martin Heidegger, 1889-1976)が残した格言ですが、人は言葉の中に生きているし、言葉こそ人がどういう存在なのかを表している、ということの意味します。要するに人にとって言葉は、かなり大事なものであるということです。

マタイ福音書12章には「木とその実」の喩えが記されていますが、そこには「木の良し悪しは、その結ぶ実で分かる」(33節)という表現があります。そして、ここで言う木は人のことを、結ぶ実は言葉のことをそれぞれ示し、人は自分の口から出る言葉によって良し悪しが評価される、ということが説明されています。では、皆さんにとって言葉はどういうものでしょうか。恐らく殆どの人が自分の言葉使いについて悩んだことがあると思います。また人の言葉から傷

ついたり、励まされたりすることもあると思います。皆さんの言葉との付き合いは良い方でしょうか、悪い方でしょうか。

非暴力的コミュニケーション(Non-Violent Communication) … M(マ)という平和で共感的コミュニケーション術を開発したアメリカの心理学者マーシャル・ローゼンバーク(Marshall Rosenberg)によりますと、私たちの中にはコミュニケーションを司る二匹の動物がいるそうです。一匹は心中心なコミュニケーションをするキリンで、もう一匹は頭中心なコミュニケーションをするジャッカルです。キリンは首が長いので陸上動物の中で一番大きい心臓を持っています。彼らは声を出さずに心の共感を通して仲間とコミュニケーションをとるそうです。それでは、相手の心の声に耳を傾けながら相手の内面の感情を理解しようとすることを象徴します。その反面、動物の死体を奪い取って生きているジャッカルは、絶えず周囲を警戒し鋭い牙で自分を守ります。厳しい生存競争の中で生き残るために相手を先に攻撃することもあるジャッカルは、自分の

基準に沿って相手のことを分析したり判断したりすることや論理的に攻めたりすることを象徴します。それゆえ、ジャッカルという言葉は批判的で否定的になりがちですが、場合によっては相手を傷つけ、羞恥心や怒りを与えることもあります。

皆さんの中にいるキリンとジャッカルとの関係はどのようなものになっているでしょうか。程の差があるだけで、人は誰もが両者の要素を全部持っています。他者とのコミュニケーションにおいて大事なことは、先ず自分の中にジャッカル的な部分があることを認めることです。仮に言葉にしくなくても心の中で鋭い牙を出してしまう自分のことを省みることです。そして、もつと大事なことは、自分が持っているキリンの部分に更に養うために努めることです。同じく「木とその実」の喩えに「人の口からは、心に溢れていることが出てくる」(34節)という言葉も記されていますが、そのように、今の大齋節の期として、ご自分の心の倉庫に良い宝を沢山入れていく皆さんになりますように祈ります。

祈りと安らぎ

石川佳子

生まれも育ちも旗の台の私には三光教会はずっと気になる建物だった。印象的な外観には子供心に憧れを抱いたが、秘密めいていて実際に入る勇氣はなかった。同窓の橋本周二郎君に、近所なら・・と誘われたことが教会に足を踏み入れるきっかけだ。

教会建築を学生時代に学んでいた主人と聖婚式を挙げた。主人は三光教会改築設計に携わらせて頂くこととなる。私自身は子育ての真最中で先輩お母さんや子育て仲間との交流を楽しみに、主日礼拝に出席した。神様の前でお祈りを捧げると何ともいえない気持ちの良い感覚を覚えた。そして、家族皆で受洗した。

七年前に神様の下に召された長男には病気による重い障害があり外出も儘ならなかった。長男が

安心して出掛けられる貴重な場が教会だった。多くの方々に温かな声をかけて頂き、私達は非常に有難かった。言葉や表情で表現できない息子も、教会に行った日はとても機嫌がよく、楽し気で満足していることがわかった。

その後、実家の両親も聖書について学びたいと教会に通うようになった。近年、目が不自由になった父と、その父を支える母も教会での活動を何よりの楽しみとしている。

日常の生活を過ごすことに精一杯の私だが、子育てでも徐々に一段落しつつあるように感じている。自分には何かできる事があるか教会の活動にも少しずつ参加していきたいと思うこの頃だ。しかしながら一抹の不安を覚えるのは同世代の少なさである。楽しい所、魅力ある所に人は集まる。変わりゆく社会の中で教会とは何だろう、と思いを馳せつつ、来週のクワイヤーには参加しようと思う。はじめの一步を踏み入れることができる教会について考えながら・・。

半世紀を迎えた

三光教会アコライトギルド

橋本 守

三光教会のアコライトギルドは1962年の降臨節に今井正道司祭(後に東北教区主教)の御指導をいただき発足しました。以前にもアコライトの働きはありましたが、少数の個人中心のアコライトでした。

三光教会はアコライトを中心に旧祈禱書の伝統的なハイマスを三光教会の聖堂に合わせたハイマス仕様のサングラスとして行なってきました。

当初は高校生を主体に一部中学生を含む統制の取れた、かなり厳しいアコライトで、20人程の男子集団でした。主日礼拝は勿論のこゝと、教区礼拝や各所の聖餐式等と呼ばれアコライトを務めました。立教高校の諸行事でも三光の立教生メンバーがアコライトを担当しました。当時三光には立教生が30人程いました。

1990年代初頭に現祈禱書が採用され、その理念に合わせ、礼

拝様式等を大きく改正しました。さらに2012年高橋宏幸司祭(現東京教区主教)の時代に祈禱書の理念を極力尊重し、三光教会の伝統や信徒の心情にも配慮した新聖堂が完成しました。合わせて礼拝様式についても、残すもの・捨てる者・新たに加えるもの等、様々な検討を行ない、整理し、改正して、現在に至りました。

半世紀を上回る年月にはギルドの活動も活発な時期や主日の奉仕者が数人程の時期もありました。発足時のメンバーでは、五十嵐兄、大越伸二兄、池田兄が現在も教会の諸活動で活躍しています。

次に1980年代、内田総司祭に育てられ、山田襄主教に愛された小学生を中心とする信徒弟15人程の賑やかなアコライトが活躍し、教区礼拝でも数年にわたりアコライトを任せられました。この時代の主力メンバーであった鈴木啓兄は残念でしたが早世されました。しかし藤田新一郎兄、藤田葉二兄、橋本周二郎兄が現在も各分野で活躍中です。

そして現在は3回目の比較的良好い時代を迎えています。女性を含む小学1年生から88歳の安部

信夫先生まで多世代混合の20人程がアコライトギルドを構成しています。祈祷書の「分け合う」という理念に沿って、礼拝奉仕を可能な限り、多くのアコライトで分担し捧げています。

アコライトに当番制や交代制は馴染みません。日常生活を営みながら年間53主日を中心に礼拝奉仕を行なうことは相応の負担や自制を伴います。各自主日を中心に自分のライフプランを持ち努力しなければ「継続」は難しいからです。それでも主要15人の3年間の礼拝奉仕状況は80%程であり、特に浜口兄、福井兄、橋本七穂姉3人の3年間は140主日を上回っています。またMCを務める橋本周二郎兄は30年のアコライト歴を持ち、現在は大阪勤務ですが三光での3年間の主日奉仕は100主日程です。単なる自己実現ではなかなか出来ない事だと思います。

今、半世紀を振り返り、オールターギルドの協力や励まし、信徒の方々の御支援をいただいて、アコライトギルドは継続できています。東北教区今井正道主教、田崎安男主教、佐藤忠男主教、横浜教

区遠藤哲主教、東京教区後藤真主教、山田襄主教からは折に触れてアドバイスを励ましをいただきました。終りに遠藤哲主教（当時司祭）のメッセージを若いアコライトに紹介します。「自分は神学生の時三光教会に行きました。よく訓練されたアコライトが礼拝奉仕をしていました。『いつか自分もこんなアコライトを持ちたい』と思いました。」感謝。

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。
●礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
●わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

午前 7:00 早祷・嘆願
午前 7:30 聖餐式
午前 9:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

月曜日から土曜日までは、
毎朝 6:30 の早祷に引き続いて聖餐式